



2020年9月期 決算説明会

株式会社アサカ理研

2020年12月9日



1. 2020年9月期 決算概況
2. 2020年9月期 業績サマリー
3. 財務ハイライト
4. 2021年9月期 業績予想
5. 今後の成長戦略
6. 株主還元
7. 参考資料

2020年9月期 決算概況

| 売上高**7,412**百万円(対前期△23.9%)、**経常利益63**百万円(同△53.5%)の減収減益

- ・ 中国経済の減速、米中貿易摩擦やCOVID-19などの影響による主要取引先の減産対応
- ・ 2019年10月に発生した台風19号による水害の影響

| 事業構成を見直すため、**経営資源の選択と集中**を実施

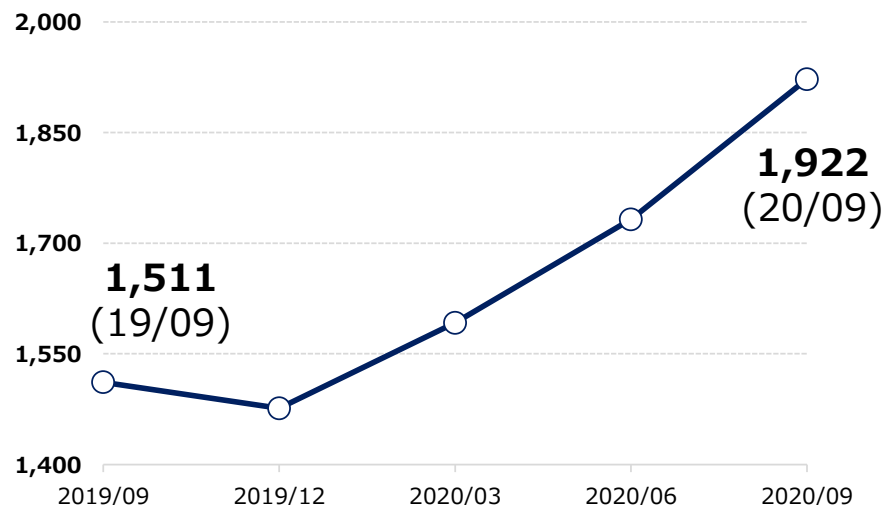
- ・ 海外子会社の撤退や不採算事業の廃止
- ・ 経営資源の有効活用を意識し、高品位貴金属の取り扱いを停止
- ・ **新規事業であるレアメタル事業に経営資源を集中**

| **リチウムイオン電池** (LiB:Lithium-ion Battery) のリサイクルに**一定の目途**

- ・ LiBの材料に使用されるレアメタルについて、メーカーでの評価試験をほぼ終了し、2021年9月期から製品供給を開始する見通し
- ・ 廃LiBから有価金属を回収し、LiB原料へと再生する「LiB to LiB」の技術確立に目途をつけ、「ふくしま産業復興企業立地補助金」の交付が決定

2020年9月期 主力製品相場

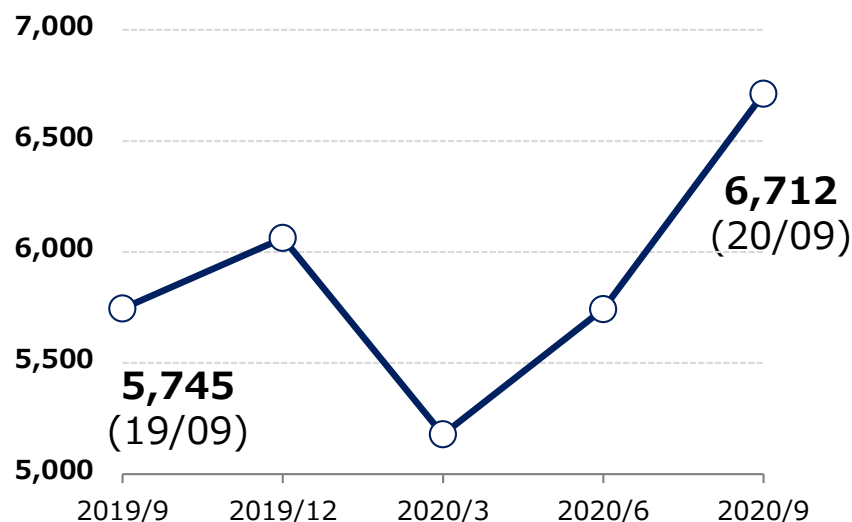
(ドル/トロイオンス) 金相場の推移



2020年9月期 金相場

- やや下落する局面からスタート
 - ☑ 一部米国企業業績の堅調さ
 - ☑ 米中貿易摩擦協議の進展に対する期待
- 年明け以降、上昇基調に転換
 - ☑ COVID-19による世界経済の減速懸念
 - ☑ 安全資産としての金需要の高まり

(ドル/トン) 銅相場の推移



2020年9月期 銅相場

- 上昇局面からスタートも下落基調へ
 - ☑ COVID-19による最大消費国である中国における銅需要の減退
- 上昇基調へ転換
 - ☑ 中国経済の回復に伴う需要の回復期待
 - ☑ 最大産地であるチリ製錬施設操業停止

COVID-19の業績への影響

- 一部取引先の減産があったものの、**業績への大きな影響はなし**
- 実態経済の減速が意識されたことで**貴金属価格が上昇し、当社業績に好影響**
- 主要取引先の減産に伴う貴金属取扱数量の減少も想定を下回り、**業績上方修正**を発表

コロナ禍における事業対策

- COVID-19感染拡大による先行き不透明な情勢に備えた財務基盤の強化
 1. 借入により手元現金を増やし、**手元流動資金の拡大**を実施
 2. コミットメントライン(臨時借入枠)の拡大を検討

(参考) 手元流動性比率

FY2019:**1.54**(カ月) → FY2020:**2.99**(カ月)

COVID-19の感染対策

- **テレワークの導入**
 - ・ 出勤時の感染リスクを予防し、自宅からのリモートワークを実施
- **勤務体系の見直し(時差出勤対応)**
 - ・ 日勤と夜勤の2シフト制を導入し、感染リスクを予防
- **社員の健康チェックの導入**
 - ・ 社員の体温と体調を毎朝記録し、社員の健康状態を把握・管理

2020年9月期 業績サマリー

- 経営環境が悪化する中、経営資源の選択と集中を実行
- 不採算事業から撤退する一方、**レアメタル事業への投資は継続して実施**

(百万円)

	FY2019	FY2020	増減
売上高	9,737	7,412	-2,324 -23.9%
営業利益	157	85	-72 -45.8%
経常利益	136	63	-72 -53.5%
(利益率)	1.4%	0.9%	-0.5pt
親株主に帰属する 当期純利益	81	120	+39 +48.3%
1株あたり 当期純利益額	31.71	47.40	

外部要因の影響

経営環境の悪化が顕著な1年

- + 貴金属相場の上昇に伴う製品価格の上昇
- COVID-19による主要取引先の減産
- 台風19号による水害での工場停止

事業構成の見直しによる影響

今後の事業戦略を踏まえ、総合的な基盤強化を実施

- + 不採算事業の廃止による利益率向上
- LiB事業への設備投資の拡大
- ± 海外子会社の撤退
- ± 高品位貴金属の取扱量の減少

その他の影響

水害の被害にかかる特別損益を計上

- + 台風被害による保険金の受領
- 水害復旧にかかる設備修繕費や人件費

2020年9月期 連結売上高



(百万円)

	FY2019	FY2020	増減
貴金属事業	8,829	6,721	-2,107 -23.9%
環境事業	777	554	-222 -28.6%
システム事業	112	123	11 10.5%
その他事業	252	228	-23 -9.4%
小計	9,971	7,629	-2,342 -23.5%
消去	-233	-216	17 -7.5%
合計	9,737	7,412	-2,324 -23.9%

| 貴金属事業

- + 金、パラジウムの販売価格の上昇
- 高品位貴金属の取扱量減少
- 海外子会社の事業撤退
- COVID-19による主要取引先の減産

| 環境事業

- 台風19号による水害での工場停止
- 同水害による主要取引先からの仕入減

| システム事業

- + 新規顧客の獲得
- + 既存顧客からの受注増加
- + 特注製品（オーダーメイド）の増加

2020年9月期 連結経常利益



(百万円)

	FY2019	FY2020	増減
貴金属事業	74	116	42 57.3%
環境事業	42	-51	-94 -221.5%
システム事業	16	12	-4 -28.0%
その他事業	2	-13	-16 -584.5%
合計	136	63	-72 -53.5%

| 貴金属事業

- + 不採算事業の見直しによる利益率改善
- + 製造部門の原価削減

| 環境事業

- 台風19号による水害での工場停止
- 不採算事業の見直しに伴う在庫評価損

| システム事業

- 積極的な営業活動の実施
(営業人員・広告宣伝費の増加)

2020年9月期 財務ハイライト

(百万円)

	FY2018	FY2019 (A)	FY2020 (B)	増減 (B-A)
資産合計	6,378	6,262	6,911	+648
現金等	1,210	1,250	1,848	+597
棚卸資産	1,112	1,339	1,228	-110
その他	4,055	3,672	3,834	+161
負債合計	3,387	3,227	3,797	+570
有利子負債	2,165	2,000	2,465	+465
その他	1,222	1,227	1,331	+104
純資産合計	2,990	3,035	3,113	+78
自己資本比率	46.8%	48.4%	45.0%	-3.4%
D/Eレシオ	0.73	0.67	0.81	+0.14

資産合計

- 現金等の増加
 - ☑ COVID-19拡大に備えた借入の実施により
手元流動性を確保
- 棚卸資産の減少
 - ☑ 不採算事業の見直しに伴う在庫評価減
- その他資産の増加
 - ☑ 研究開発棟のリニューアルに伴う土地取得

負債合計

- 有利子負債の増加
 - ☑ 手元流動性の確保、および土地取得に伴う
借入金の増加

LiB事業に対する投資拡大により
総資産は増加傾向へ

連結CF

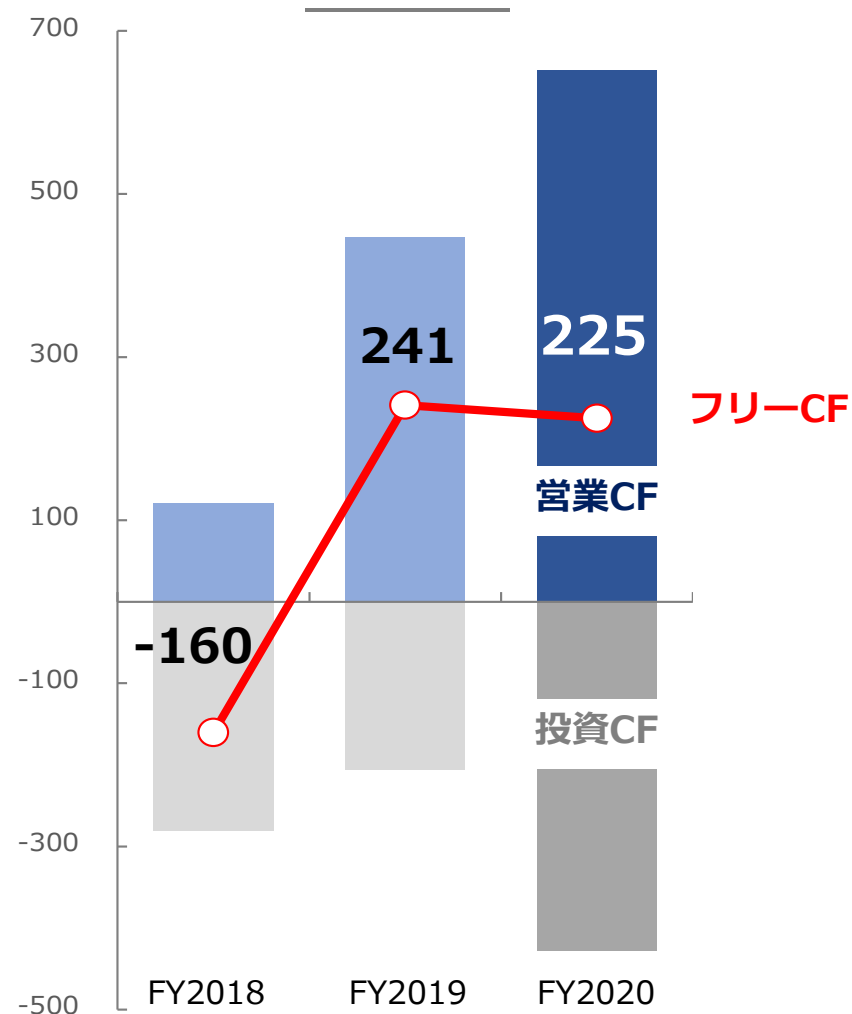
- 経営環境が厳しい中でも、**レアメタル事業に対する経営資源投下を継続し、**
持続的な成長を果たすための土台作りに邁進

(百万円)

	FY2018	FY2019	FY2020
営業活動によるCF	120	447	652
税引前当期純利益	322	125	123
減価償却費	233	246	233
その他	-434	75	294
投資活動によるCF	-281	-206	-427
有形固定資産の取得	-269	-150	-425
その他	-12	-55	-1
財務活動によるCF	110	-189	377
借入金借入・返済収支	150	-134	470
その他	-39	-53	-92
換算差額等	2	-11	-2
現金及び現金同等物	579	620	1,220
フリーCF	-160	241	225

CFの推移

(百万円)



2021年9月期 業績予想

連結業績予想

- COVID-19の収束時期や米中貿易摩擦の長期化などの不確定要素はあるものの、事業環境は徐々に回復していくものと見込む。
- LiB事業に対する投資規模を更に拡大し、先行投資を優先。

(百万円)

	FY2020	FY2021	増減
売上高	7,412	7,052	-360 -4.9%
営業利益	85	115	+29 +34.9%
経常利益	63	74	+11 +18.3%
(利益率)	0.9%	1.1%	+0.2
親株主に帰属する 当期純利益	120	53	-66 -55.5%
1株あたり 当期純利益額	47.40	21.20	

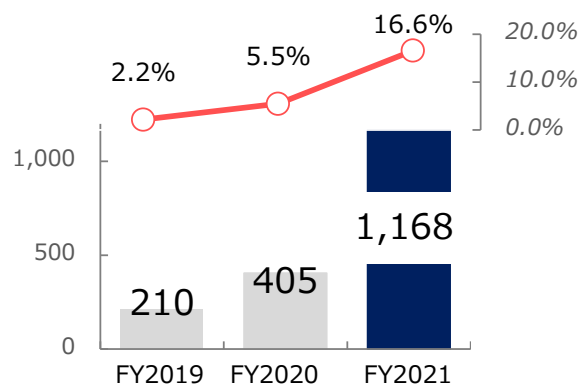
外部要因の影響

- 5GやEV普及など、市場見通し良好
- + 主要取引先の生産量も回復見込
- + 貴金属相場も高値圏で推移と想定
- + 台風19号からの復旧完了

事業構成の見直しによる影響

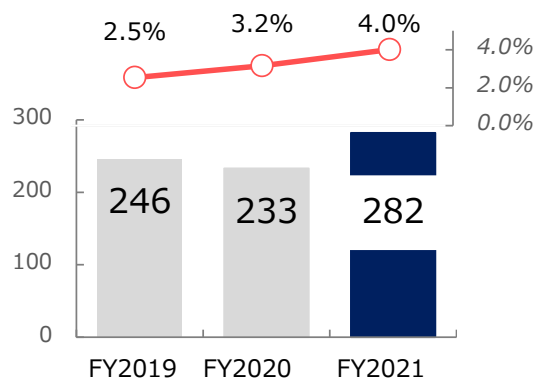
- FY2020実施の事業整理による利益率改善
- + 事業整理による利益率の改善
- LiB事業にかかる設備投資
- ± 金の受託加工取引割合の高まり
- ± 海外子会社の撤退による売上高減、利益率上昇

投資関連経費



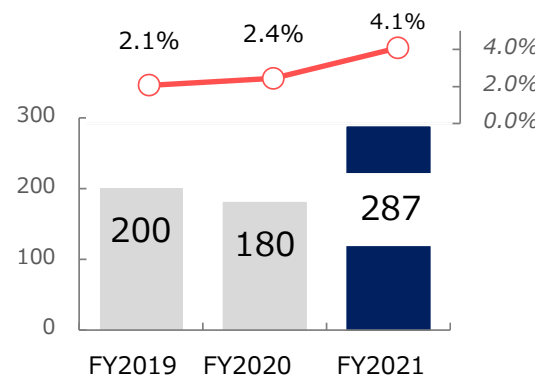
設備投資

- LiB事業にかかる量産プラントの導入
- 既存製造工程の合理化



減価償却費

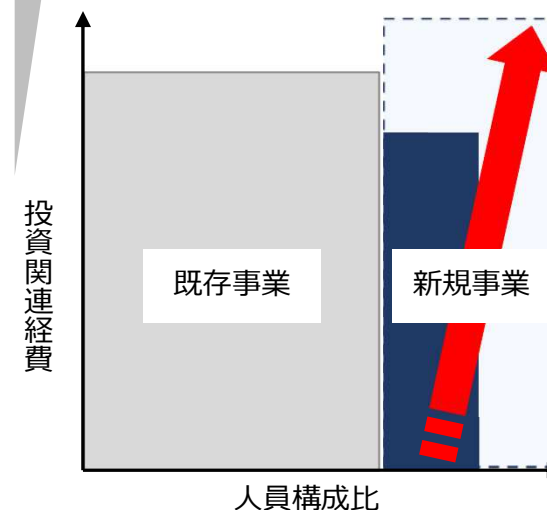
- 大型設備投資により、増加
- FY2022には400百万円超の見通し



研究開発費

- LiB事業に対して重点的に投資
- 研究開発のスケールup

新規事業を中心に
戦略的に投資を実施

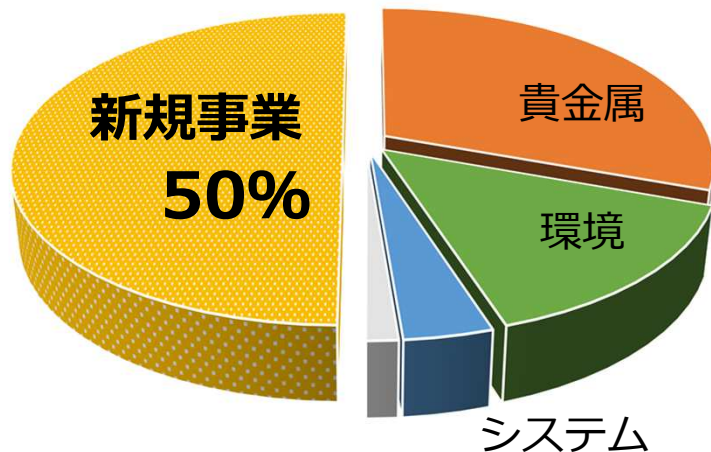


今後の成長戦略

1. 2021年9月期 経営目標
2. LiB事業について

| 経営課題

目標とする利益構造



● 外部環境の急速な変化に伴う事業構成の見直し

- ・ 事業ポートフォリオにおける貴金属事業の比率が高く、同事業の業績動向に大きく左右される
- ・ 電子部品・デバイス業界の生産動向や貴金属相場の影響に大きく左右される
- ・ 技術革新による既存事業の市場縮小懸念

| 経営目標

● 成長が見込める産業への参入

- ・ 大きな成長が見込めるリチウムイオン電池（以下LiB）のリサイクル事業へ参入
- ・ 当社の技術力を応用し、LiBからの有価金属回収を行う

● 既存事業の収益力の向上

- ・ 貴金属事業はじめ、相場に頼らない純粋な「稼ぐ力」の強化を図る

● 経営基盤の強化

- ・ 今後の事業展開に備えた財務基盤の強化と、コーポレートガバナンスの見直し

これまでの歩み



特許取得件数

15件

(含.消滅済み)



新規参入



光学ガラス向け
タンタル販売開始



電子部品業界向け
タンタル販売開始

FY2013

FY 2014

FY2015

FY2016

FY2017

FY2018

FY2019

FY2020



光学レンズからの
タンタル回収



リチウムイオン
二次電池からの
レアメタル回収に挑戦



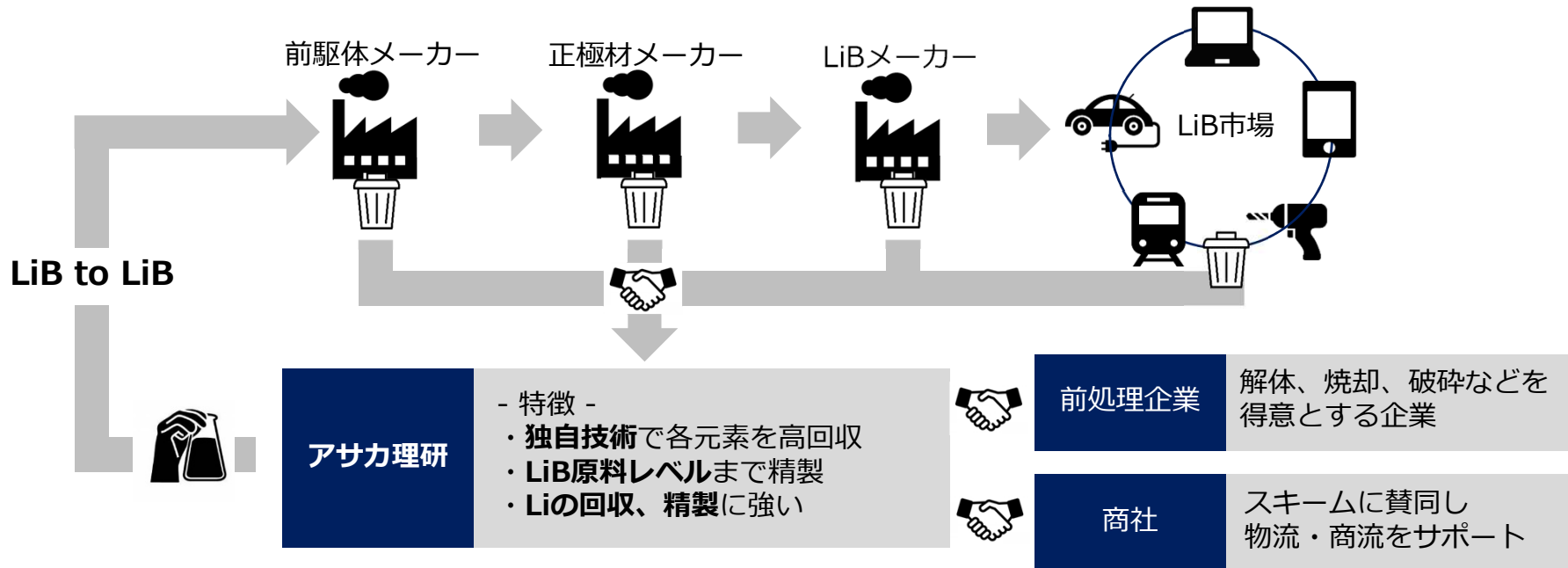
LiBリサイクルビジネス

アサカ理研の強み

- **LiB材料まで製造できる** ⇔ 他社は他用途（ステンレス材や磁性材）
- **国内生産** ⇔ 現状LiB原料はすべて海外輸入で海外情勢、COVID-19等による調達リスクあり
- **リチウムの回収、精製に強い** ⇔ 他社は回収できても低回収率

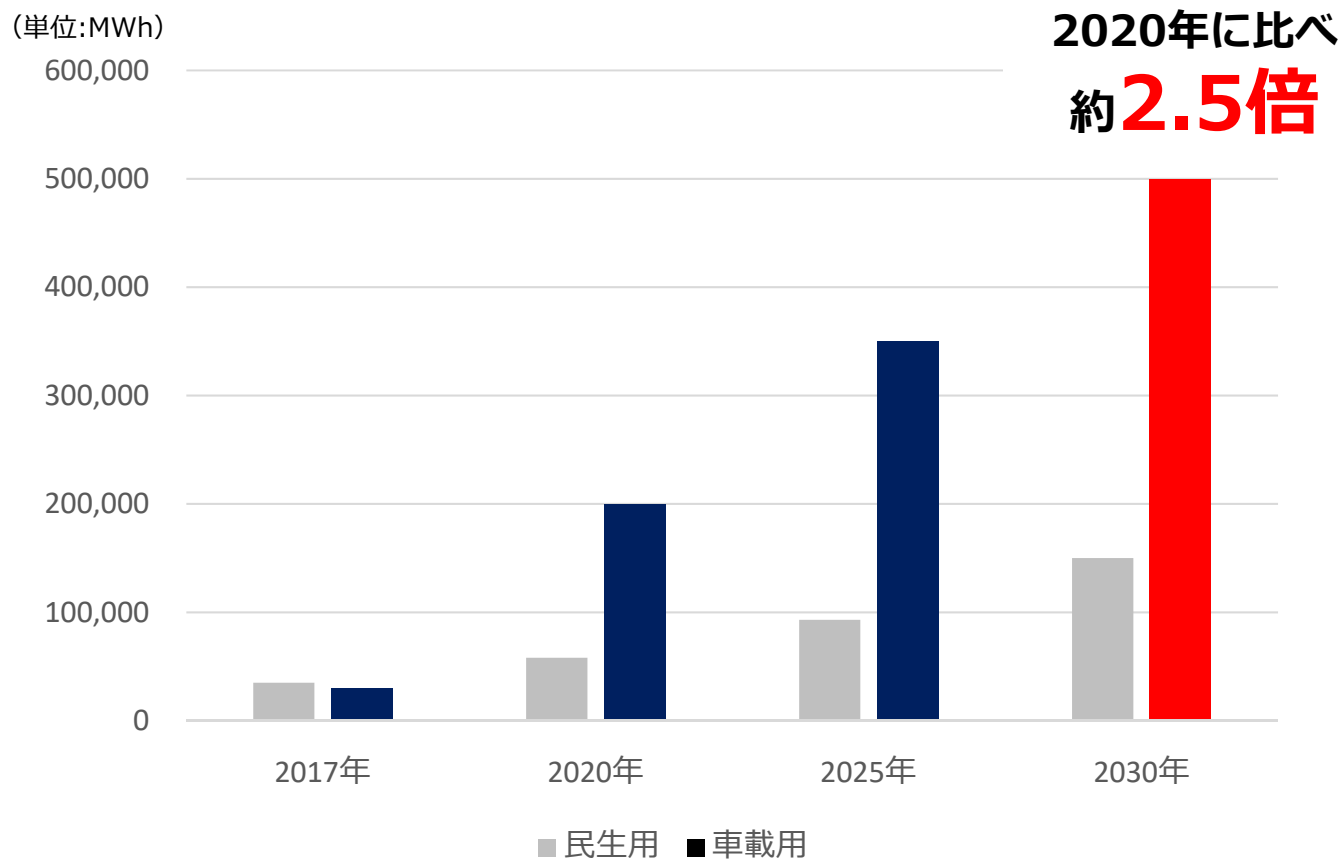
ビジネスモデル

- LiBスクラップからLiB材料の生産（**LiB to LiB**）を目指す
- 各企業と**アライアンスを組む事**でより強固なスキームを構築する



市場規模推移（電池容量ベース）

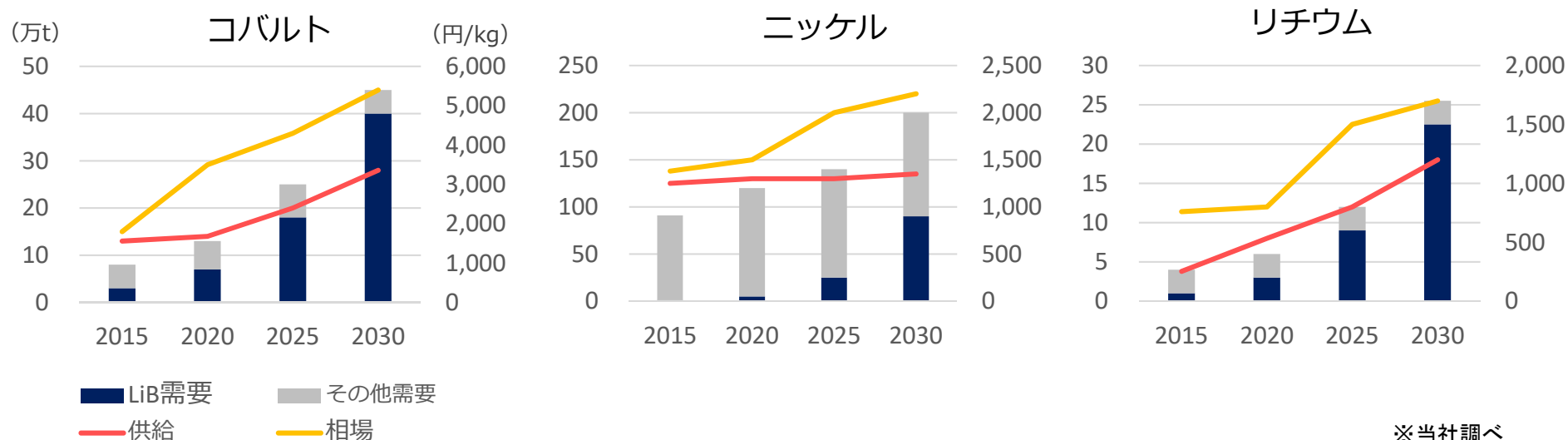
- 市場全体が拡大するが特に車載用が牽引していく



※当社調べ

LiB原料の需給バランス

- 主原料であるコバルト、ニッケル、リチウムは2025年には**供給不足**に陥る
- 原料価格は高騰し、リサイクル原料の需要が高まる

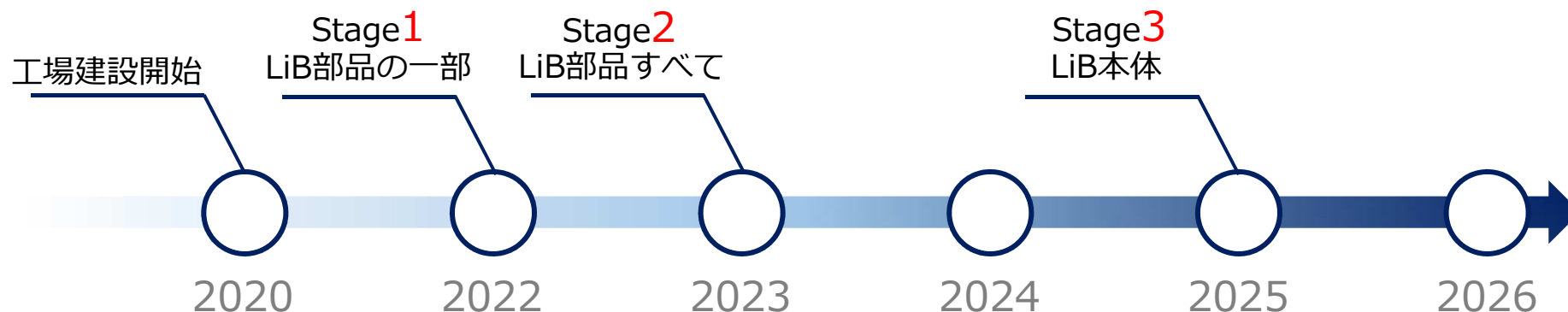


供給が伸びない主な要因

- コバルト コンゴの情勢不安、コンゴ輸出関税の増税、中国輸出規制
- ニッケル 主産国であるインドネシア輸出規制とフィリピンの環境規制
- リチウム 塩湖周辺環境対策、産出国の経済不安

| 投資計画

- LiB市場拡大と共に事業範囲を拡大していく



アサカ理研単独による
立ち上げ

Stage1~3まで拡大していくには複数社との協業による
事業規模の拡大が必要

LiB材料の供給量

国内供給シェア

10%

既存事業 + LiB事業

売上高

(FY2020実績)

74 億



現行の **4** 倍

経常利益

(FY2020実績)

1 億



現行の **30** 倍

株主還元

株主還元に関する目標

- 株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、**安定配当**を継続する。
- **ROE10%**を目標とし、資本効率を高め持続的な成長を目指す。
- 業界内における競争に勝ち残るための企業体質強化、今後の事業展開等に備えるための内部留保充実等を勘案しながら、業績に裏付けられた成果の配分を行う。

株主還元イメージ

中長期的な企業価値向上 = **株主利益の最大化**



株主還元

先行き不透明な経営環境でも
毎年安定配当を実施



成長

ROE10%を確保し資本効率を
高め、持続的な成長を果たす

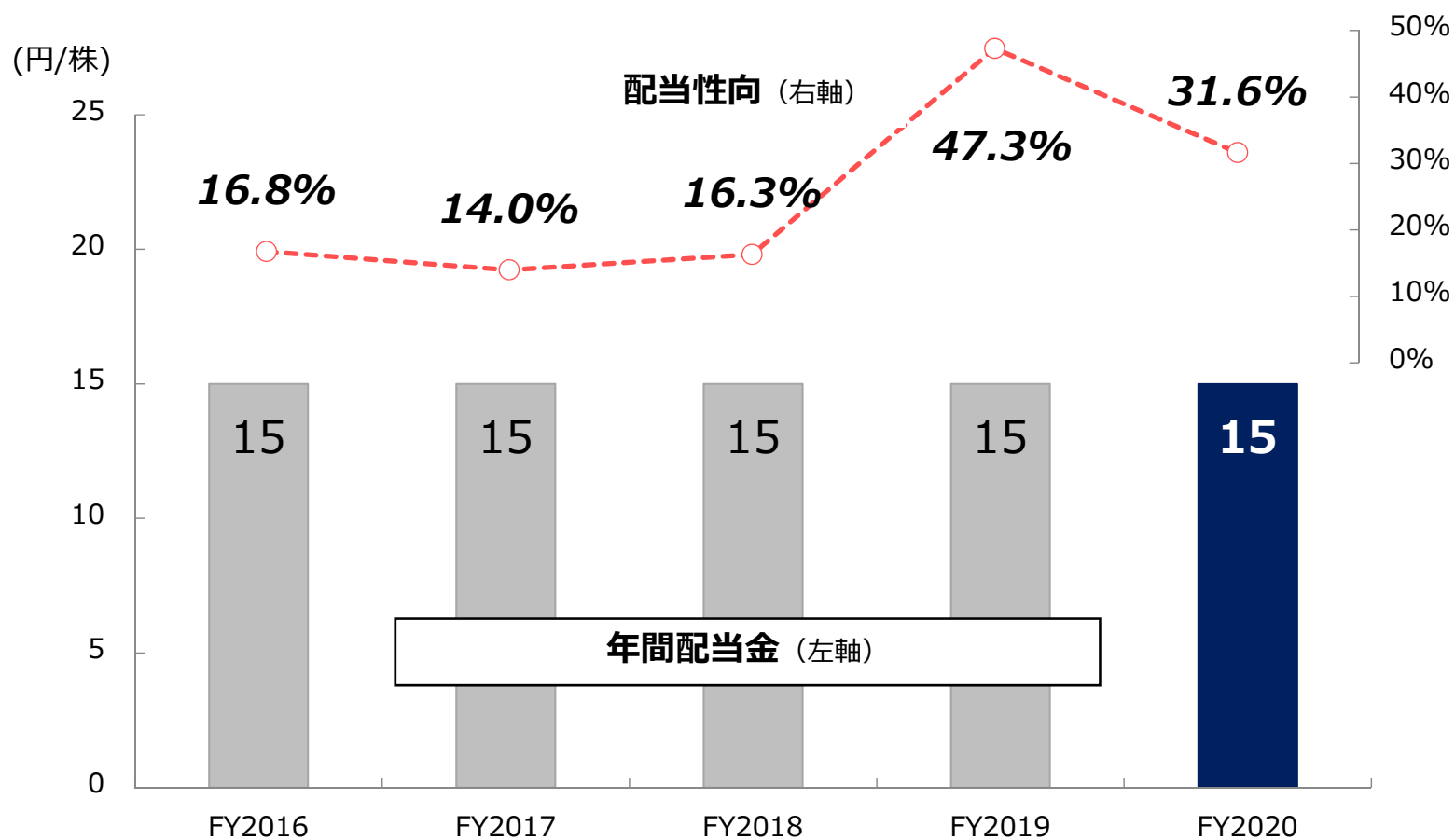


安定性

事業展開や不測の事態に備え
十分な内部留保を確保

株主配当計画

- 2020年9月期 1株あたり配当**15円**、配当性向**31.6%**、配当利回り**1.1%**

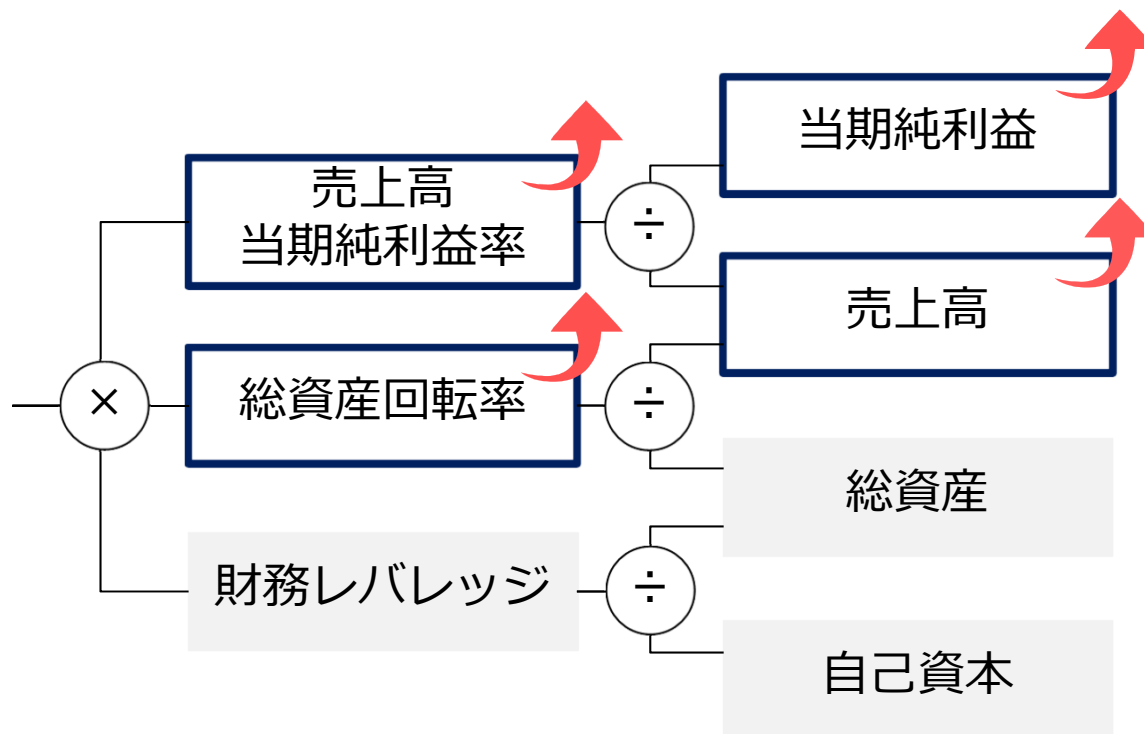



資本効率の向上

- 2020年9月期ROE **3.9%**
- 資本効率を意識した経営を実践し、ROE **10%**を達成
- 獲得した利益を配当原資にするほか、新たな投資へ振り分け、持続的な成長を達成

目標ROE

10%





<IRに関するお問い合わせ先>

株式会社アサカ理研

管理本部 経営企画部 経営企画室

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字マセロ47番地

TEL : 024 (944) 4744

FAX : 024 (944) 4749

E-MAIL : ir@asaka.co.jp

URL : <http://www.asaka.co.jp/>

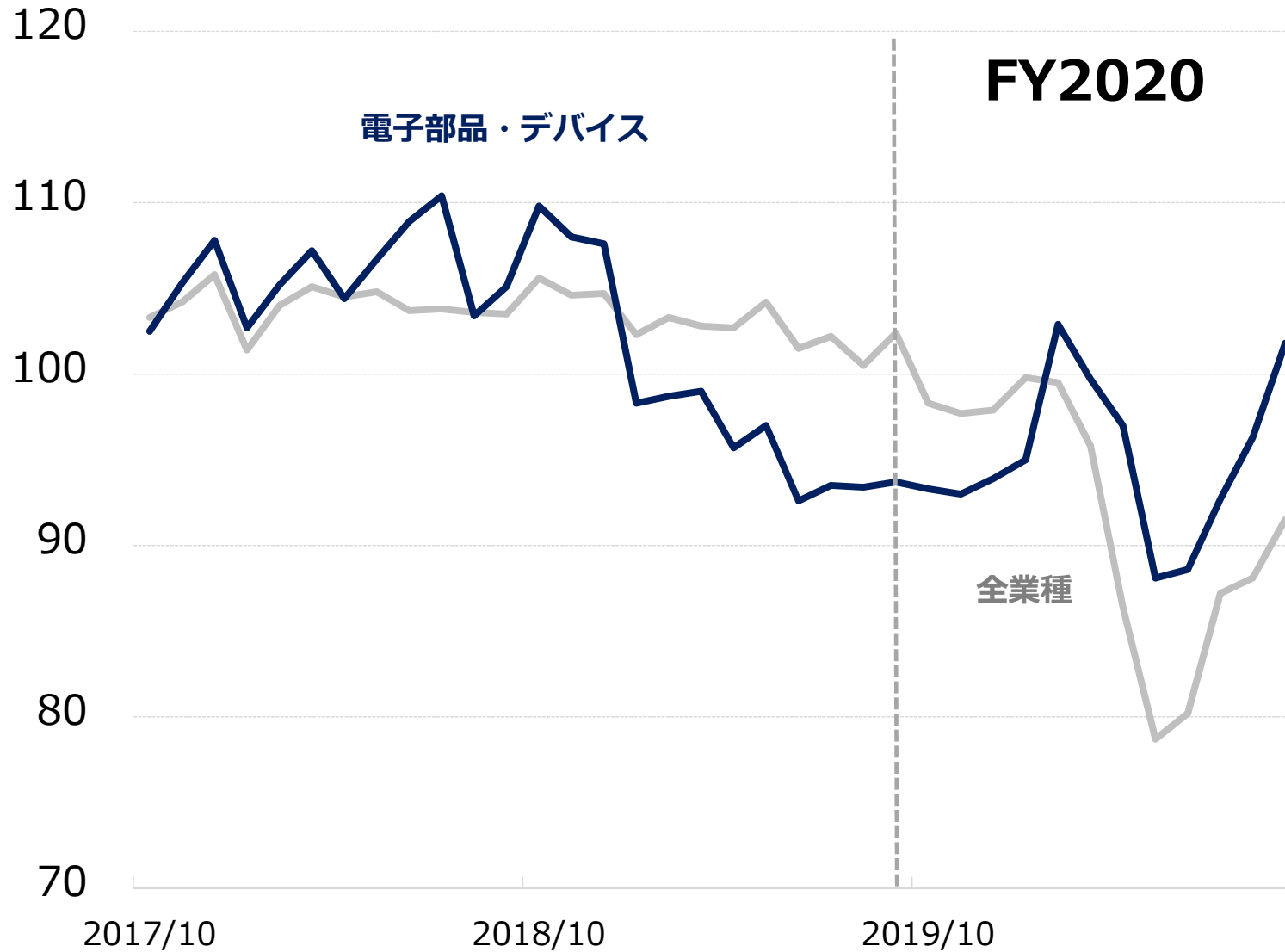
- 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本書はいかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付の申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

参考資料

[事業環境] 鈇工業生産指数

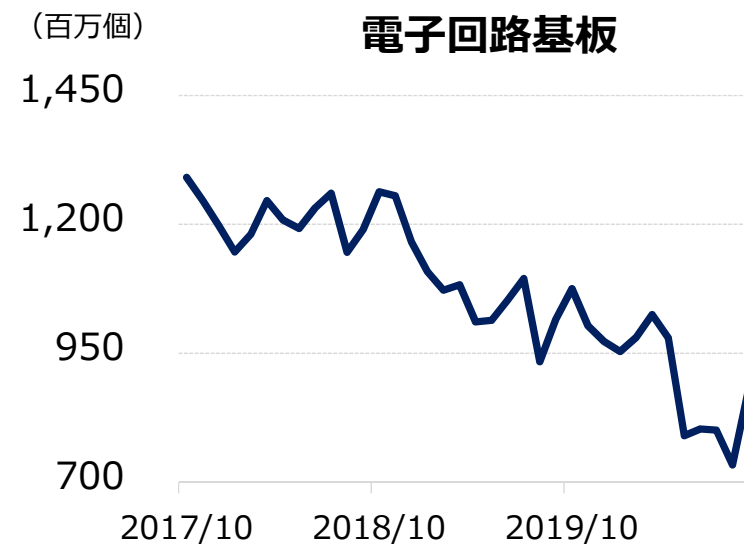
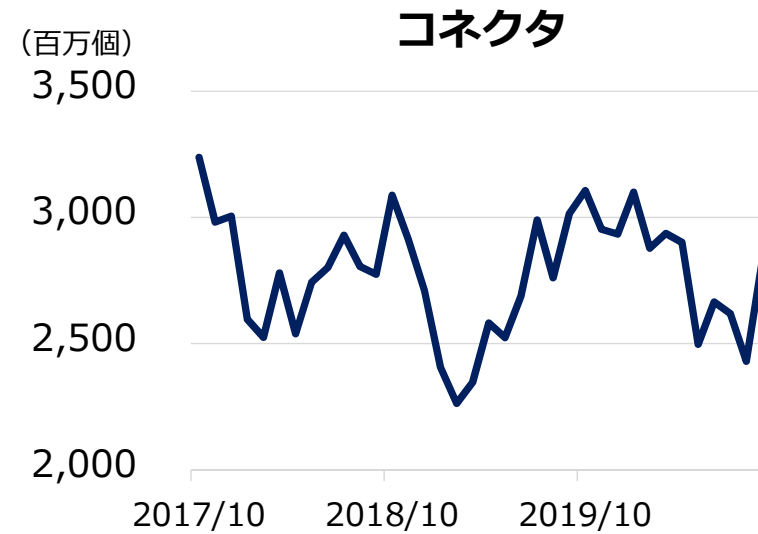
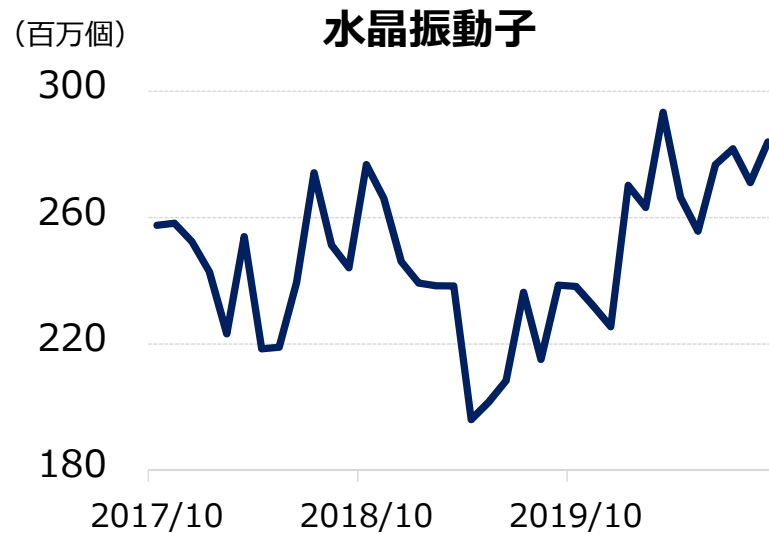


指数：2015年 = 100.0

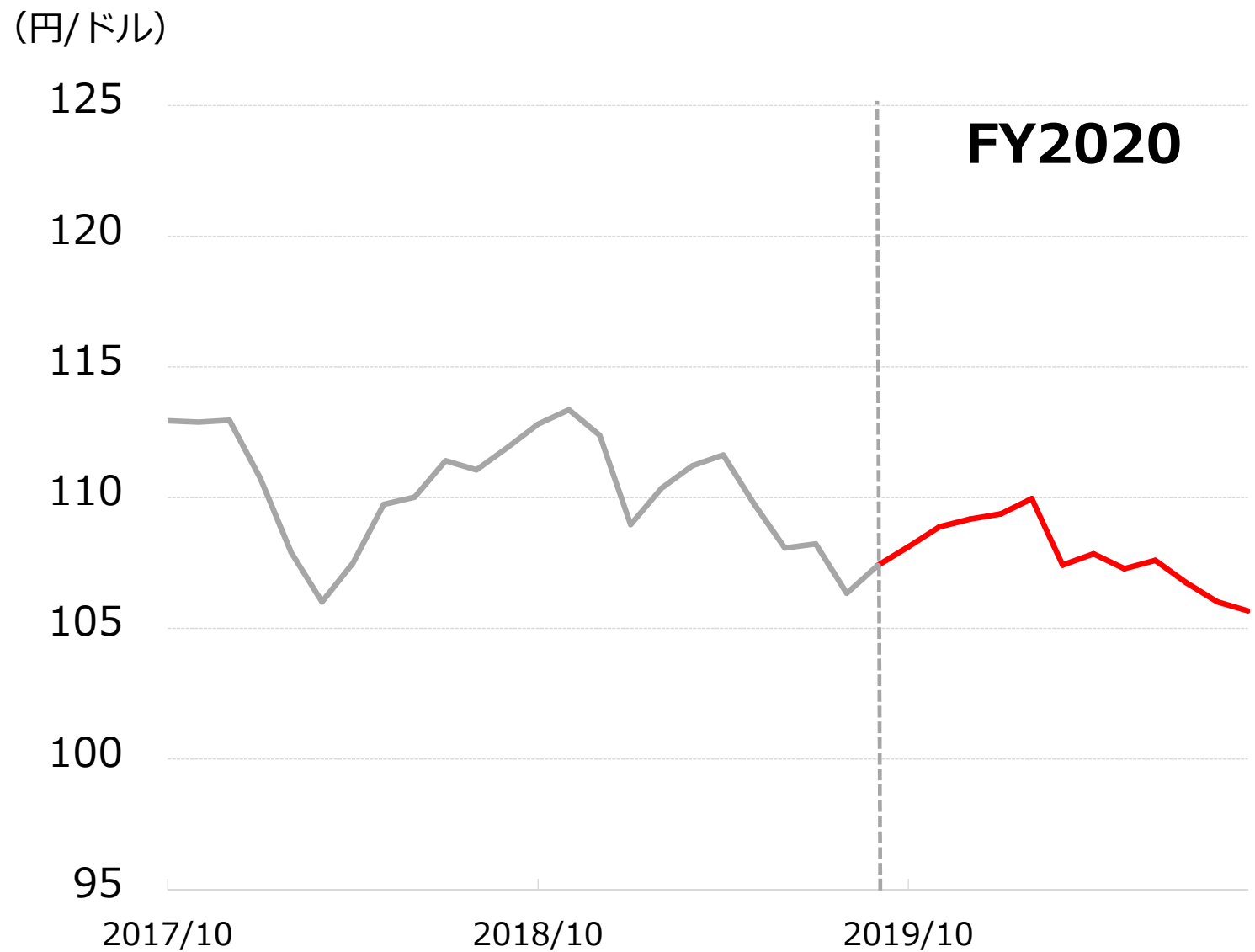


出所：経済産業省発表 鈇工業指数（生産・季調済み）

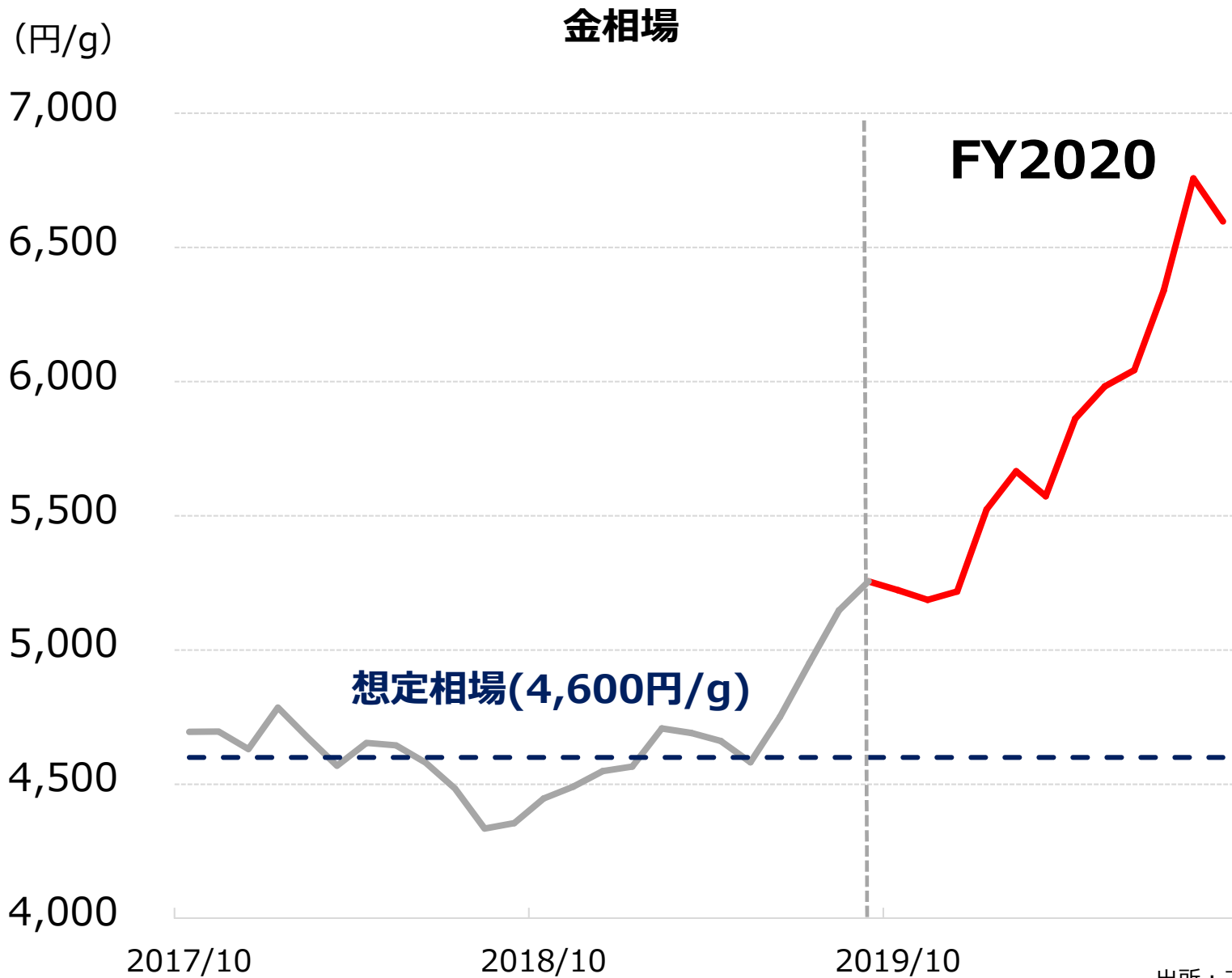
[事業環境]業界別生産実績



出所：(社)電子情報技術産業協会

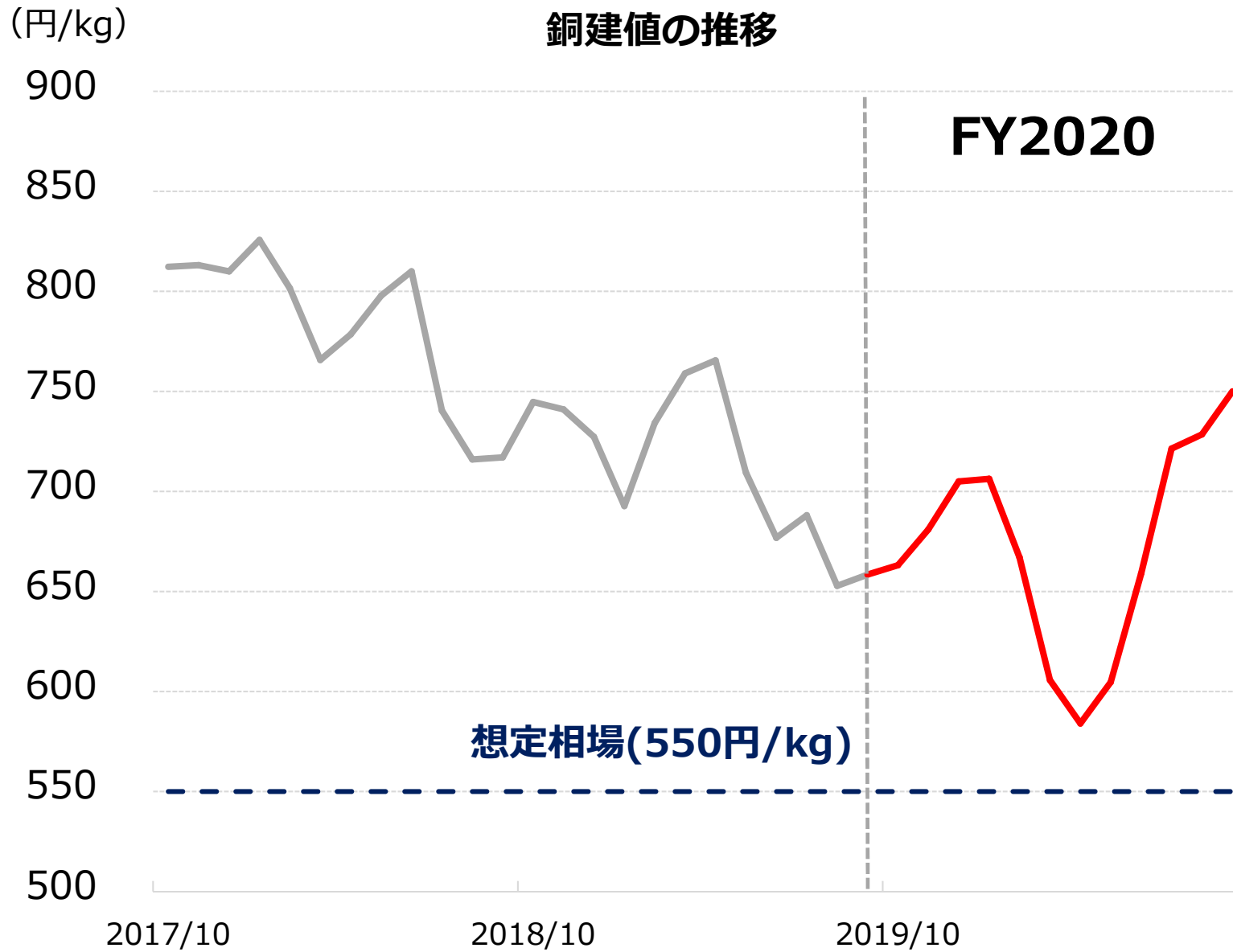


[事業環境]金価格



出所：三菱商事

[事業環境]銅建値



出所：JX金属株式会社